

袖について

京都女大家政。畠山絹江 京都女子高 岡川裕子 名古屋女大短大 南出妙子

目的 第2報で得られた基礎資料から、袖のパターンメイキングについて基本的因子を見い出すと共に、袖に含まれるゆとり量について考究することを目的とした。

方法 被験者は第2報と同じ。前報¹⁾で発表した身ごろ原型をベースに、実験用パターンを作成した。このパターンとレプリカで得られたヌードパターンの両者を計測し、その差を求めた。また他の袖原型について比較検討し、本資料における袖パターンの特徴を明らかにしようとした。

結果 ①実験用袖パターンと静態時におけるヌードパターンの差は、袖山の高さ7.2%、袖幅27.2%、身ごろA.H.14.9%、袖パターンの方が大きく、袖つけのいせこみ量は、63%であった。②上肢3動作時におけるヌードパターンと袖パターンの差は、袖幅で上挙時が最大の伸び率を示したが、この寸法は、袖パターンの方で許容できる範囲であった。③他の原型について比較すると、身ごろA.H.寸法がパターンメイキングの基準となっている方式では、胸圍サイズの大小により、袖山の高さ、袖幅、袖つけ寸法が著しく影響を受ける。袖山の高さを規定し、上腕最大圍を基準とする方式は、身ごろA.H.と袖つけ寸法の差において、A.H.の方が大きくなる体型もあり、理論的に一致しないようである。

これらのことから、袖原型のパターンメイキングについて基本となる項目は、身ごろA.H.寸法であり、この寸法は胸圍のゆとりよりも肩角度や、A.H.の深さの設定に起因すると思われる。

1) 1980年、日本家政学会総会にて発表。